

# 栃木県地域枠学生及び医師に対する アンケート調査結果について

栃木県保健福祉部医療政策課  
（とちぎ地域医療支援センター）

# 栃木県地域枠制度に関するアンケート（実施概要）

## 1. 目的

- 地域枠学生及び県養成医師に対して、栃木県地域枠制度及び自らのキャリア形成に関する意識調査を行ったもの

## 2. 対象者

- |                   |     |       |
|-------------------|-----|-------|
| ① 自治医科大学栃木県枠の学生   | 33名 |       |
| ② 獨協医科大学栃木県地域枠の学生 | 55名 |       |
| ③ 自治医科大学栃木県枠の卒医   | 47名 |       |
| ④ 獨協医科大学栃木県地域枠の卒医 | 52名 | 計187名 |

## 3. 実施期間

- 令和4（2022）年6月24日（金）～7月6日（水）

## 4. 実施方法

- 栃木県電子申請システムを活用し、匿名形式で実施

## 5. 回答率

※「医師」の回答者内訳

臨床研修医 15名

専攻医 23名

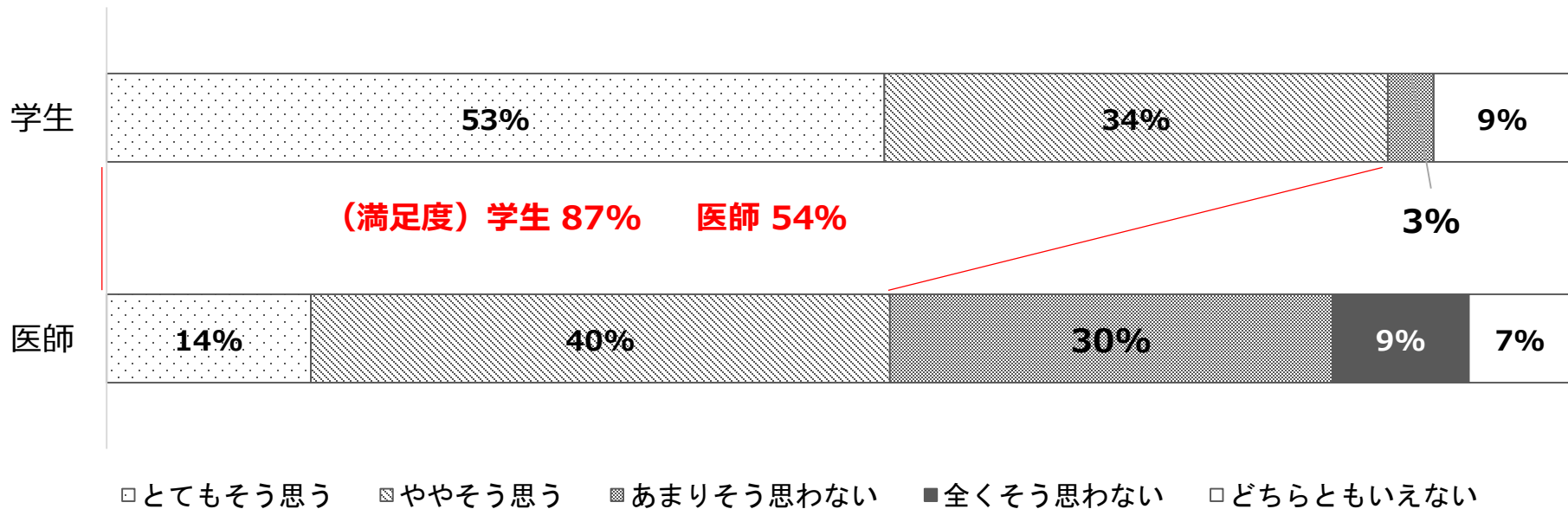
上記以外 5名

区分	学生	医師※	計
回答者数	32名	43名	75名
回答率	36%	43%	40%

# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（①満足度）

- 地域枠で入学して良かったと思うと回答した者の割合は、学生では87%であったのに対し、医師では54%に留まった。
  - 一方で、「全くそう思わない」と回答した者の割合は、学生では0%であるのに対し、医師では9%に達していた。
- ⇒ 実際に医師として働く中で制度に対して強い不満を感じる機会が多いのではないかと推察する。

Q. 地域枠で入学して良かったと思うか

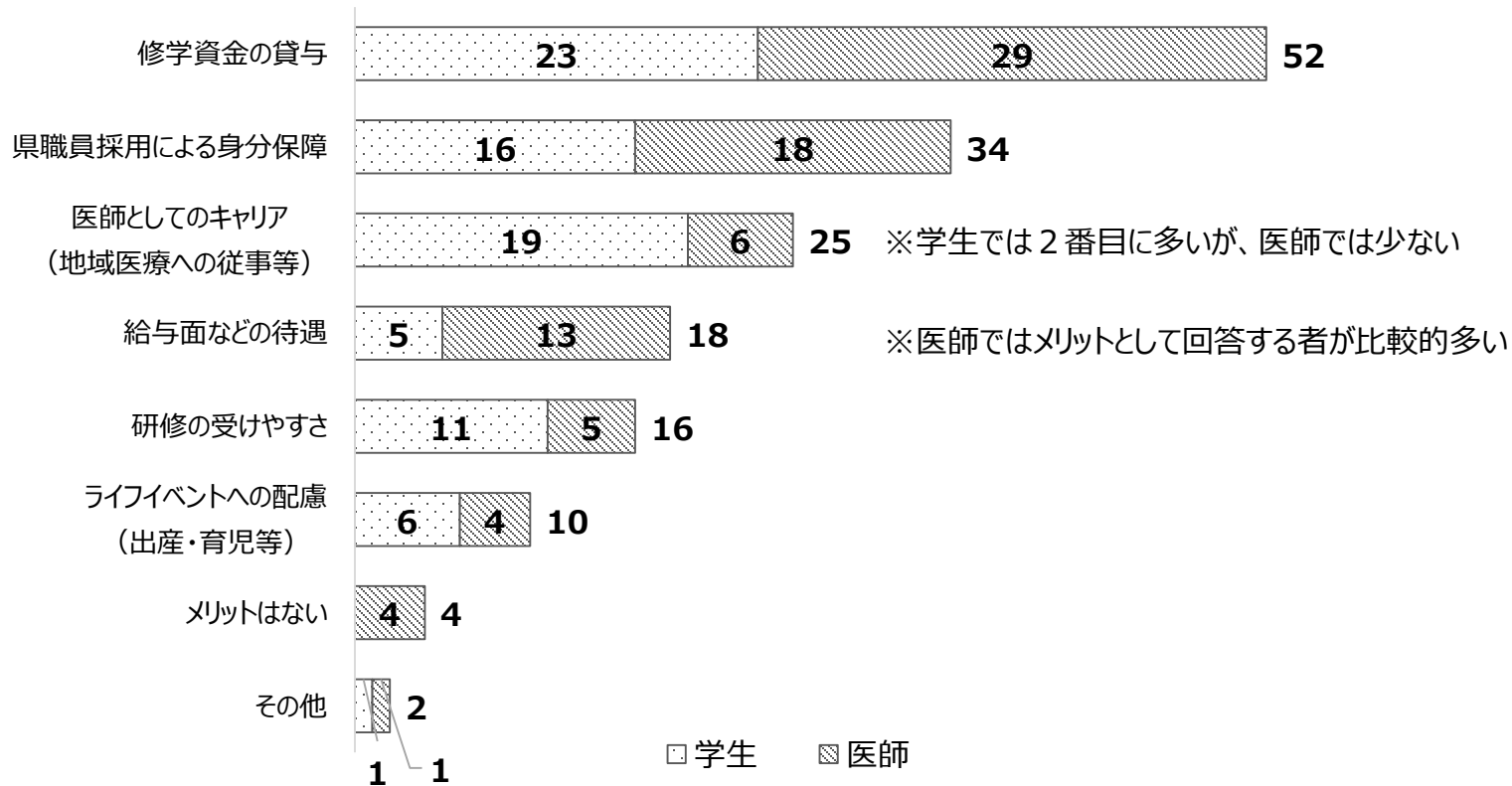


区分	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	どちらともいえない
学生	17名 (53%)	11名 (34%)	1名 (3%)	0名 (0%)	3名 (9%)
医師	6名 (14%)	17名 (40%)	13名 (30%)	4名 (9%)	3名 (7%)

# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（①満足度）

- 地域枠のメリットとして回答数が多かった項目は、「修学資金の貸与」、「県職員による身分保障」、「医師としてのキャリア」の順となっている。特に、修学資金の貸与については、学生及び医師ともに、メリットとして回答する者が最も多かった。
- 学生では、地域医療に従事することによる医師としてのキャリア形成をメリットと捉える者が19名と多い一方、医師ではこれをメリットと回答する者が少なく、給与面などの待遇を挙げる者が多かった。

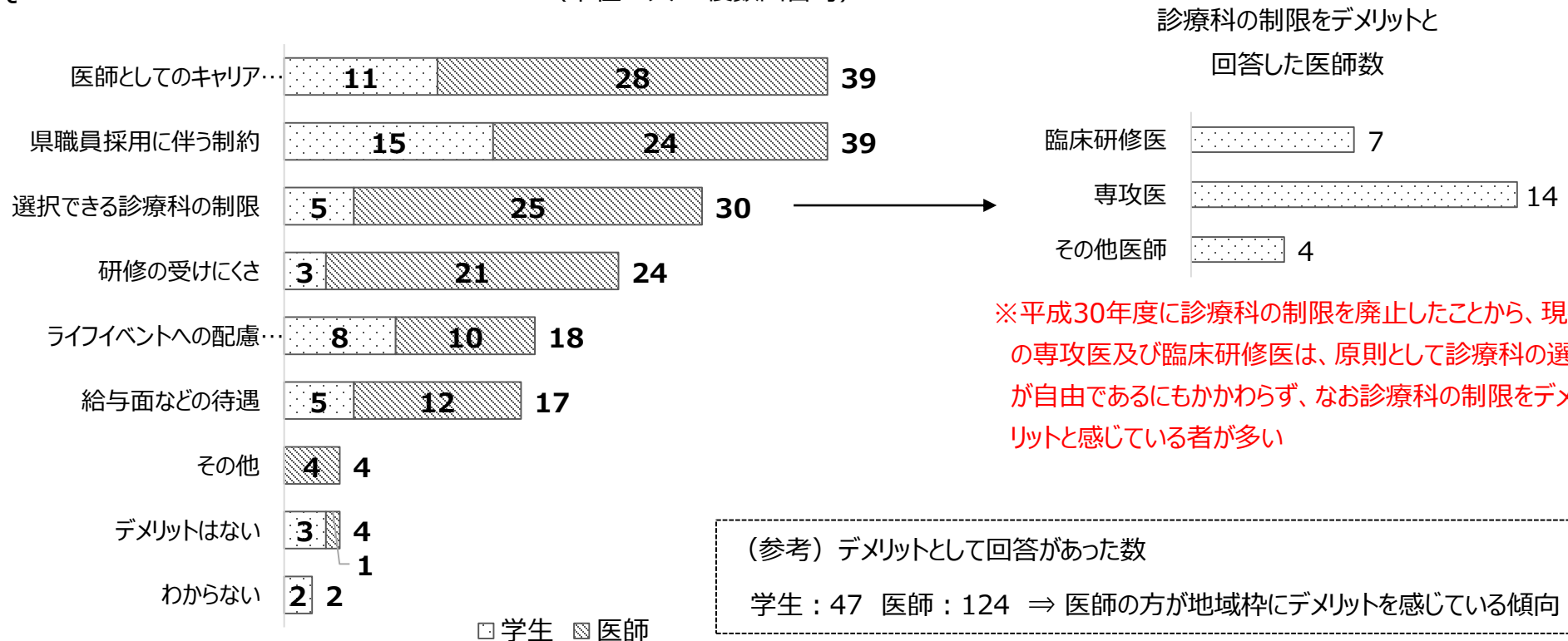
Q. 地域枠のメリットと思うものは何か？（単位：人・複数回答可）



# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（①満足度）

- 地域枠のデメリットとして回答数が多かった項目は、「医師としてのキャリア（希望する進路との不一致）」、「県職員採用に伴う制約」、「選択できる診療科の制限」の順であった。
  - 前問で「県職員採用による身分保障」をメリットと回答する者が多い一方で、その制度上の制約（県人事による派遣、外勤等）をデメリットとして捉えている者も多かった。
- ⇒ 原則として診療科の選択は自由としているが、履修できない専門研修プログラムがあることや研修先が限定されることなど、実質的な制限が生じていることが、様々なデメリットを感じる要因となっているものと推察する。

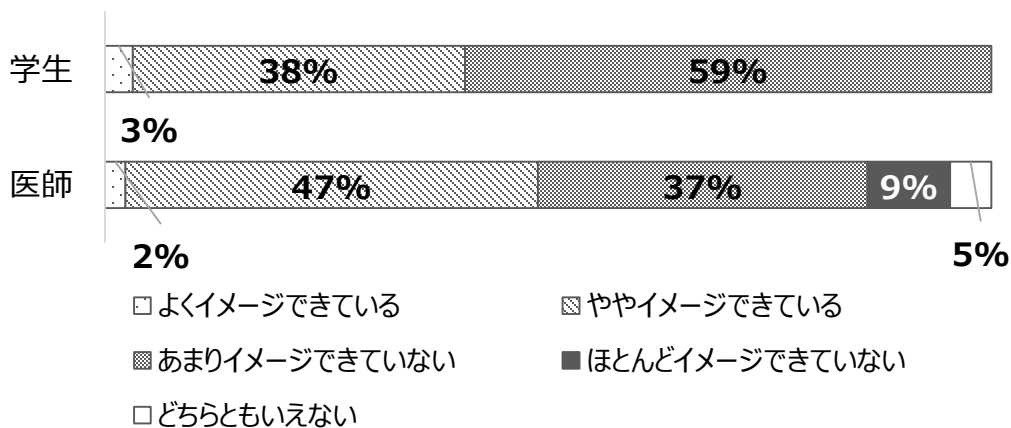
Q. 地域枠のデメリットと思うものは何か？（単位：人・複数回答可）



# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果 (②キャリアへの不安)

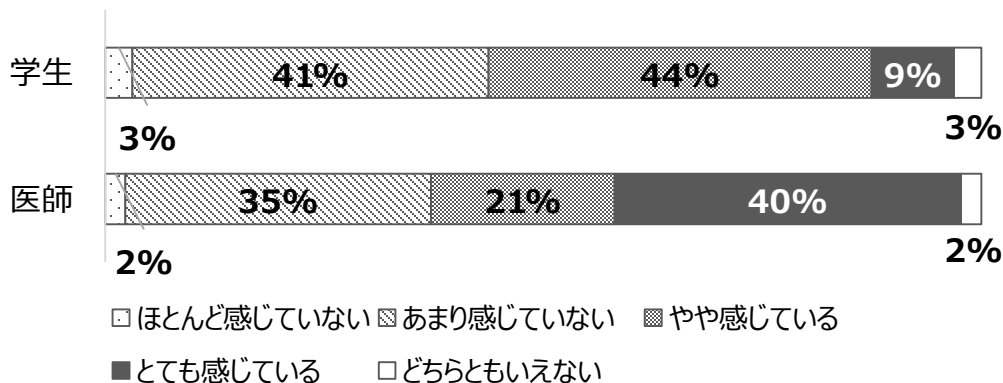
- 学生及び医師ともに、約半数の者が自身の医師としてのキャリアをイメージできていないと回答した。(学生59%、医師46%) )
- 将来のキャリアに不安があると回答した者は、学生で53%、医師では61%となっていた。特に医師にあっては、「とても不安を感じている」と回答した者の割合が40%と多かった。

Q. 医師としてのキャリアをイメージできているか？



区分	学生	医師
よくイメージできている	1名 (3%)	1名 (2%)
ややイメージできている	12名 (38%)	20名 (47%)
あまりイメージできていない	19名 (59%)	16名 (37%)
ほとんどイメージできていない	0名 (0%)	4名 (9%)
どちらともいえない	0名 (0%)	2名 (5%)

Q. 将来のキャリアに不安はあるか？



区分	学生	医師
ほとんど感じていない	1名 (3%)	1名 (2%)
あまり感じていない	13名 (41%)	15名 (35%)
やや感じている	14名 (44%)	9名 (21%)
とても感じている	3名 (9%)	17名 (40%)
どちらともいえない	1名 (3%)	1名 (2%)

# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（②キャリアへの不安）

## キャリアに不安を感じる理由（自由回答）

### ① 将来の勤務先・進路に関すること（7件）

- 派遣病院や医局との関係性、自身の希望勤務との兼ね合い
- 現在専門医研修はほとんどが新専門医でのプログラムであり、旧制度者がどのように扱われるかが不透明
- 学習して行くうちにやりたい事が変わってしまった場合、それが出来ないかもしれないという不安 など

### ② ライフイベントへの対応に関すること（5件）

- 子育てをしながら医師としてのキャリアを形成していける自信がない
- 実家に何か起きたときに制限がある など

### ③ 研修条件（義務履行の中断）に関すること（4件）

- 留学、大学院進学への制限
- 診療科選択にあたり、県外の施設での修練が前提となっている科もあり、実質進路選択の幅は狭くなってしまう
- 義務年限のために1年間で大学病院から離れなければならない、自分が専門としたい分野の修練が遅れてしまう

### ④ サブスペシャリティの取得に関すること（3件）

### ⑤ 自身の能力・スキルに関すること（2件）

- 技術、経験値や知識の不足
- そもそも、医師として働き続けられるかどうか、自信が持てない。診療科の選択を誤ったかもしれない。

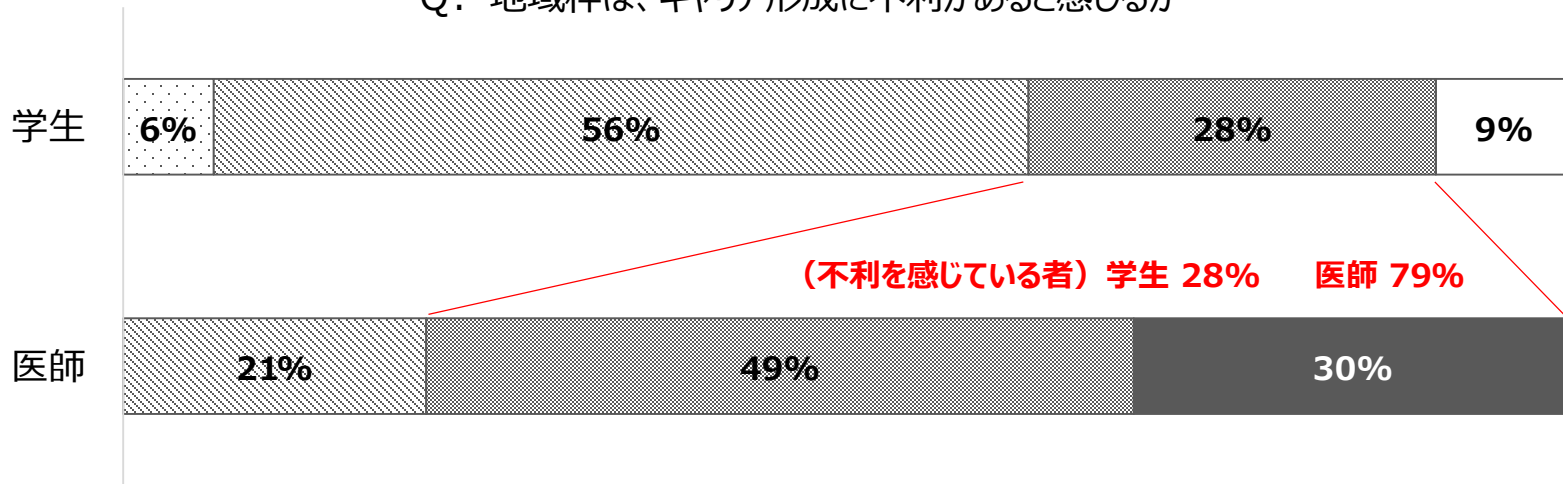
### ⑥ その他（4件）

⇒ ③及び④のような栃木県地域枠制度の運用に起因したキャリアへの不安と、⑤のような一般的な不安とが混在

# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果 (③キャリアへの不利)

- 地域枠はキャリア形成に不利があると感じると回答した者の割合は、学生では28%であるが、医師では79%であった。
  - また、「とてもそう感じている」と回答した者の割合は、学生では0%であるのに対し、医師では30%に達していた。
- ⇒ 実際に医師として働く中で制度によってキャリア形成が不利になっていると感じる機会が多いのではないかと推察する。

Q. 地域枠は、キャリア形成に不利があると感じるか



□ 全くそう感じていない ■ あまりそう感じていない ▨ ややそう感じている ■ とてもそう感じている □ どちらともいえない

区分	全く感じていない	あまり感じていない	やや感じている	とても感じている	どちらともいえない
学生	2名 (6%)	18名 (56%)	9名 (28%)	0名 (9%)	3名 (0%)
医師	0名 (0%)	9名 (21%)	21名 (49%)	13名 (30%)	0名 (0%)



# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（③キャリアへの不利）

## キャリアに不利があると感じる理由（自由回答）

### ① 診療科・派遣先の制限に関すること（10件）

- 選択できる診療科、勤務先が限られている
- よくも悪くも選んだ進路によって研修先や勤務先が変わる
- 現在は幅広いが、かつては制限が多かった。仮に枠が広がっても後輩とイスの取り合いになる
- 派遣された場所でできることをするしかないが、将来の派遣先が不透明で何を準備してよいかわからない など

### ② 知識・スキルの習得に関すること（8件）

- 希望する病院に行けなかったり、県外への短期間の研修が難しいため
- 県外での一時的な修練や留学に制限があるため
- 専門の科のなかでも症例数に偏りがあり、同期や後輩が外で学ぶ機会がある中で焦燥感や不安がある
- アカデミックキャリアの制限 など

### ③ サブスペシャリティの取得に関すること（2件）

### ④ 外勤の制限に関すること（2件）

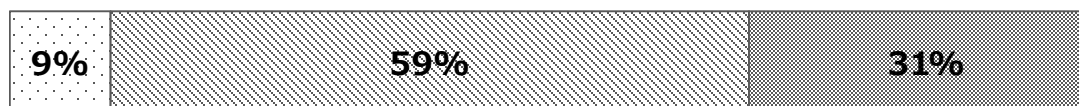
### ⑤ その他（5件）

⇒ 卒後9年間は、県外の医療機関での勤務や海外留学を行うことができないことについて、自らのスキルアップに不利が生じていると考えている者が多いことから、県内の各公的医療機関等で研鑽を積むことができる技術や経験できる症例等を提示することも必要ではないか。

# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果 (④医療提供体制の理解度)

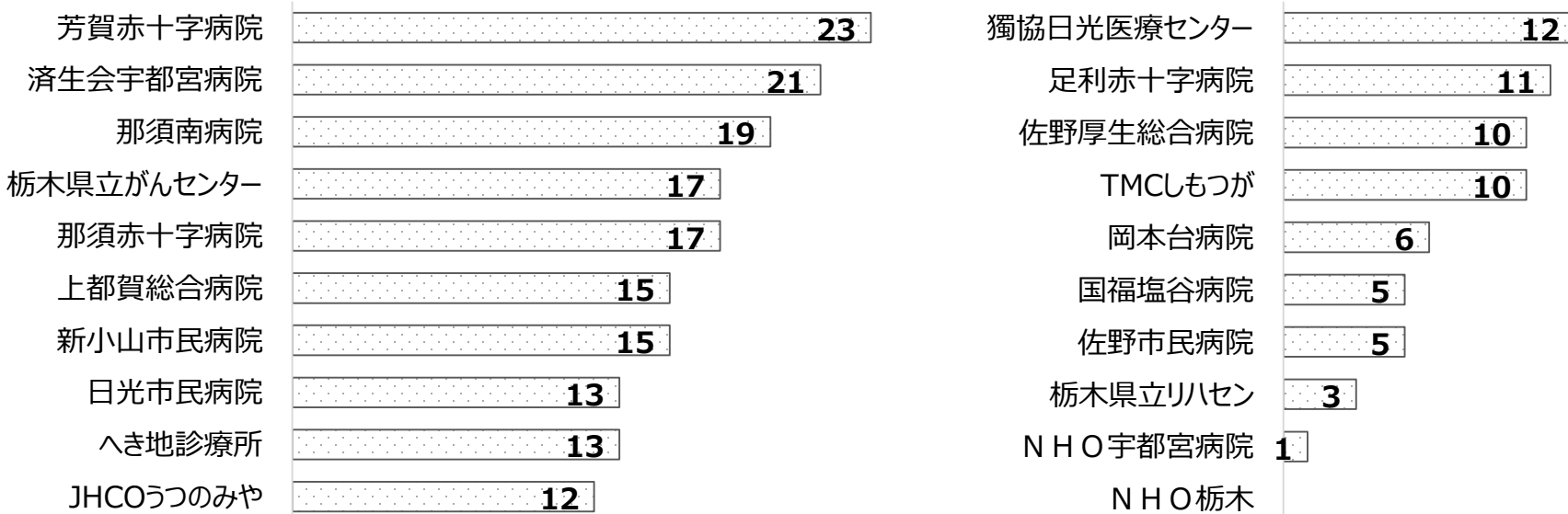
- 本県の医療提供体制について、理解していると回答した学生は68%であった。
  - 一方で、県内の公的医療機関等の認知度については、医療機関ごとにばらつきが見られた。
- ⇒ 学生にとっては、各医療機関が担っている役割よりも、所属大学の関連病院であるかどうか認知度につながっているものと推察する。

Q. 本県の医療提供体制をどの程度理解しているか？ ※学生のみ回答



□ とても理解している    ▨ やや理解している    ■ あまり理解していない

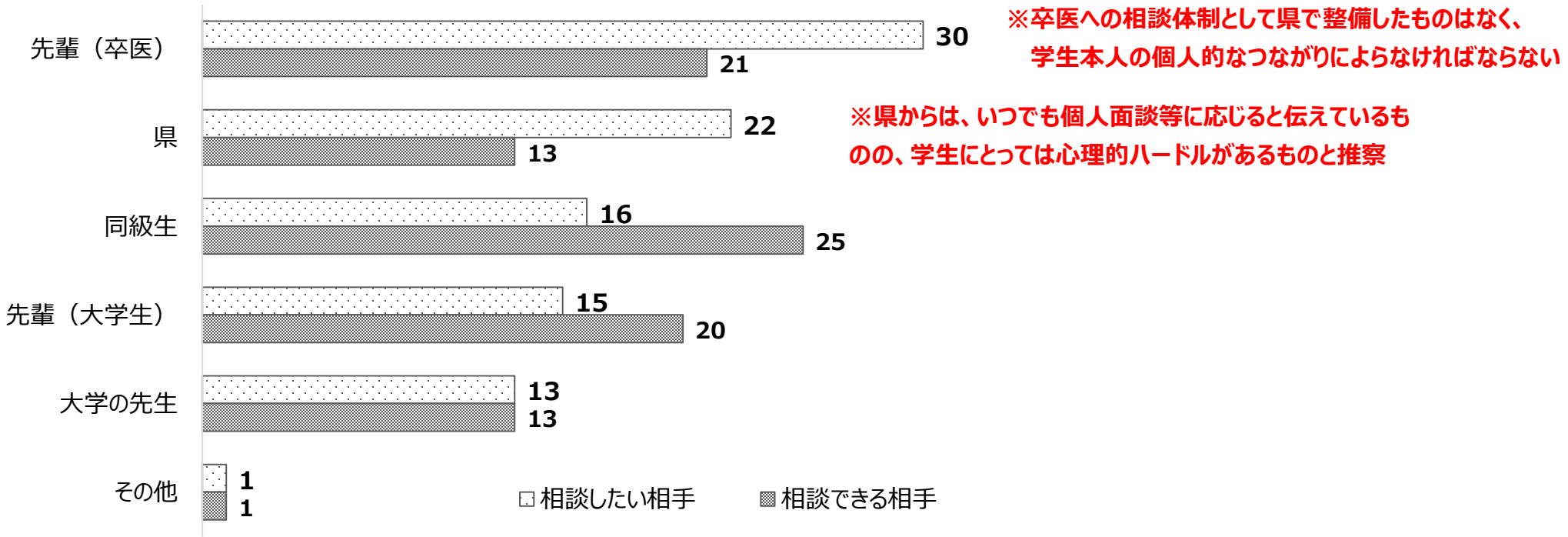
Q. 概要を知っている医療機関はどこか？ ※学生のみ回答 (単位：人・複数回答可)



# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（⑤相談相手等）

- 学生に対して、自らのキャリアについて相談したい相手を尋ねたところ、先輩（卒医）、県の順に多かった。
  - 一方で、自らのキャリアを相談できる相手は、同級生、先輩（卒医）、先輩（大学生）の順となっていた。
- ⇒ 希望に応じた相談ができていない理由として、個人的なつながりに頼らざるを得ないことや心理的な聞きにくさがあること等が考えられ、相談体制の整備の必要性が伺える。

Q.キャリアに関する相談相手について ※学生のみ回答（単位：人・複数回答可）



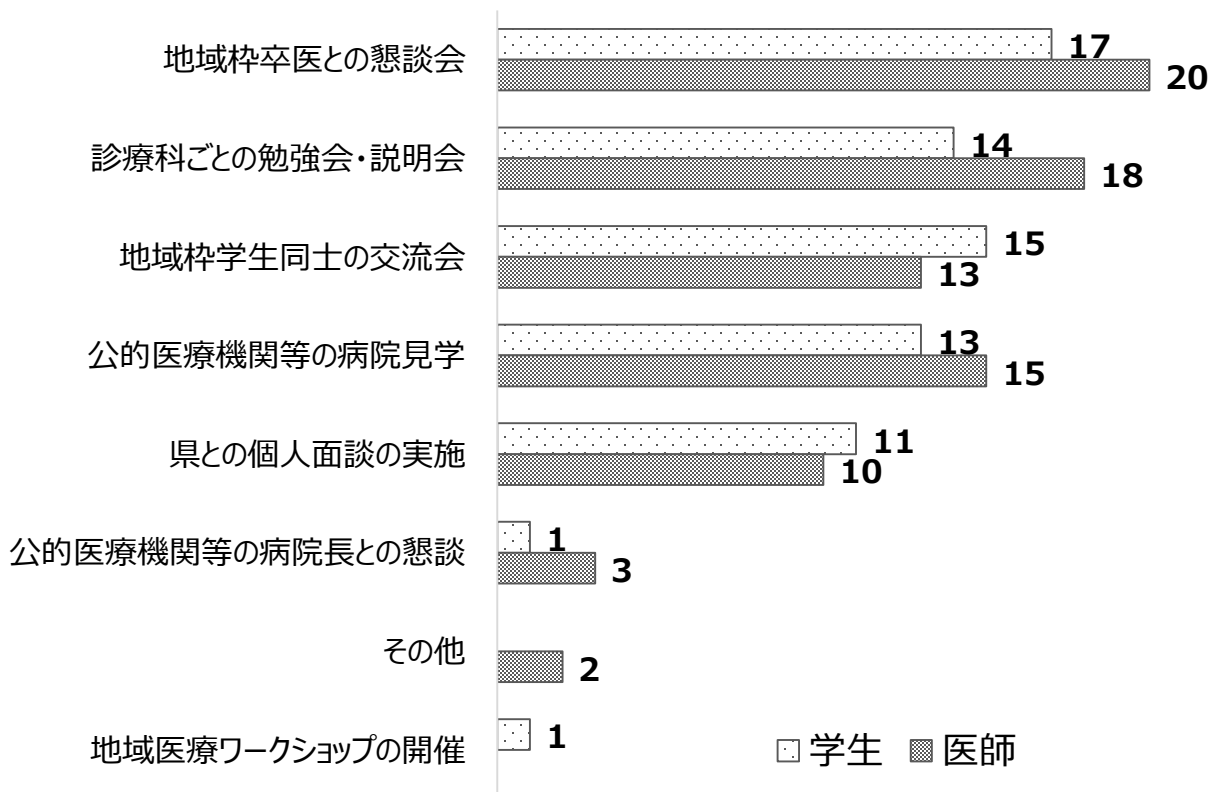
# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（⑥実施してほしい取組）

- 県に実施してほしい取組を尋ねたところ、「地域枠卒医との懇談会」、「診療科ごとの勉強会・説明会」、「地域枠学生同士の交流会」、「公的医療機関等の病院見学」の順に多かった。

⇒ 学生のうちから、卒後のキャリアについて具体的に知る機会を提供してほしいとの希望が伺える。

Q.県に実施してほしい取組は何か？

（医師の場合、在学中に実施してほしい取組は何か？）（単位：人・複数回答可）



# 栃木県地域枠制度に関するアンケート結果（⑦その他自由意見）

## 主な自由意見

- 茨城県では県外での修練や海外留学にともなう一時的な義務の離脱が認められているそうです。医師として若いうちに修練が必要な時期もあり、こうした制度もぜひ栃木県に導入してほしいです。結果的に医師としての技術向上に結びつき、最終的に県への貢献につながると考えます。また、大学病院への専門研修期間が1年間となっていますが、栃木県においては大学病院でも実質的な市中病院的な役割も果たしており、診療科によって2年大学在籍が必要な場合専門医取得時の義務年限算入を認めてほしいです。
- 自治医大卒医です。専攻科の選択の幅が広がったことは後輩にとっても良いと思いますが、地域、特に診療所などの僻地医療に関して、内科、外科などの特定の診療科に負担が大きいくことは不公平感があります。卒業生間で診療科選択にかかわらず僻地医療勤務は分配するべきと感じます。
- 幅広い専攻ができるようになるのはいいですが、マイナー科が優遇されてることが気掛かりです。また自分の選択で内科を選んだから仕方がないのですが、内科が減ってきて僻地勤務(診療所のみならず地域中核病院)の皺寄せが来てると思います。マイナー科のほうが順当にキャリア形成できるとなるとより減ってくるのではないのでしょうか。不平等感があると感じます。
- 在学中は獨協医科の総合診療科は北海道に行くため難しいと言われたが、行ける診療科が限られる場合は早めに教えてほしい。またその方針が変更されたときも教えてほしいと思った。
- 義務終了後のキャリアが不安です。
- 診療科の制限、ハラスメント対応、医師不足診療機関での医療安全の確保、政治志向ではない診療実体を踏まえた体制作りをお願い申し上げます。
- 最近、安易な理由での地域枠離脱が増えている印象がある。自分は全く不満がないが、地域枠に対して不満を抱いている学生も一定数存在する。そのような学生に対して代替案の提示や説得をより強化すべきだと考える。安易な離脱が認められるのであればこれから先も離脱が続出すると考える。
- キャリア形成は日々の診療に自信がついてから取り組めるものだと思います。専門医制度などに精通するためにも、まずは将来必要とされる診療知識と技術に触れ、学生の目の前の不安から解消する方が優先と考えます。
- 個人面談など、将来のキャリアを対面でじっくり話し合える場があると良いのかなと思います。
- 地域枠学生同士のWSで得られるものがとても少ないと思う。少なくとも自治医大の学生としては何も得られなかったと今でも思う。やらなくて良いのではないですか？